

# 作 業 基 準

(ハウステンボス運河遊覧

A、B1、B2、D、E、F、G、H航路

及び運河水門マリーナコース)

令和6年 3月 10日

ハウステンボス株式会社

## 目 次

第1章	目 的	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2章	作 業 体 制	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第3章	危険物の取り扱い	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第4章	乗下船作業等	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第5章	旅客の遵守事項等の周知	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4

## 第1章 目的

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、ハウステンボス運河内遊覧航路及び運河水門マリナ不定期航路の作業に関する基準を明確にし、もって輸送に関連する作業の安全を確保することを目的とする。

## 第2章 作業体制

(作業体制)

第2条 陸上誘導員及び船長の配置は、次の区分による。旅客誘導、整理、綱取り、綱放し等の一連の作業は、陸上、船内いずれも各々兼務するものとする。

(1) 陸上作業

- |                   |   |      |
|-------------------|---|------|
| ① 乗下船する旅客の誘導      | } | 1人兼任 |
| ② 船舶の離着岸時の綱取り、綱放し |   |      |
| ③ 乗船待機中の旅客の誘導     |   |      |
| ④ 乗下船設備の架設及び取外し   |   |      |

(2) 船内作業

- |                  |   |      |
|------------------|---|------|
| ① 乗下船する旅客の誘導     | } | 1人兼任 |
| ② 船舶の離着岸時における諸作業 |   |      |
| ③ 乗下船設備の操作       |   |      |

2. 陸上誘導員及び船長は、作業現場にあつては、名札等の所定の標識をつけ、その所在を明確にしておくものとする。

(陸上誘導員の所掌)

第3条 陸上誘導員は、運航管理者の命を受け、陸上における次の作業を行なう。

- (1) 乗船待機中の旅客の整理
- (2) 乗下船する旅客の誘導
- (3) 船舶の離着岸時の綱取り、綱放し並びに旅客乗降施設等の操作
- (4) その他旅客の乗下船に関する作業

(船長の所掌)

第4条 船内作業は、船長自ら船舶上における次の作業を行なう

- (1) 旅客の乗下船時の誘導
- (2) その他旅客の乗下船に関する作業

### 第 3 章 危険物等の取り扱い

(危険物の取り扱い)

第 5 条 危険物の取扱いは、運送約款第 4 条第 2 項第 2 号の規定により、危険物の船内への持込みは拒絶するものとする。

2. 陸上誘導員又は船長は、旅客の手荷物及び小荷物、その他の物品が前項に該当するおそれがあると認めるときは、運航管理者又は船長の指示を受けて、運送申込人の立ち会いのもとに点検し必要な措置を講ずるものとする。
3. 船長及び陸上誘導員は、前 2 項の措置を講じたときは、直ちに、当該措置を運航管理者に報告するものとする。

### 第 4 章 乗下船作業等

(乗船待ちの旅客の整理)

第 6 条 陸上誘導員は、乗船待ちの旅客等が船舶の離着棧作業等により危害を受けないよう、待合所等所定の場所に整理し待機させる等安全の確保に努める。

(旅客の乗船)

第 7 条 陸上誘導員及び船長は、旅客の乗船作業に関し十分な打合せを行い、乗船開始時刻を周知する。原則として離棧 10 分前又は乗船中の旅客下船後から乗船を開始する。

2. 船長は、タラップの架設の完了を確認した後又は、旅客下船終了後陸上誘導員に乗船開始の合図をする。
3. 陸上誘導員は、船長の合図を受けた後、旅客の乗船を開始する。
4. 陸上誘導員は、旅客を乗降口に誘導し、乗船口から船内へ誘導する。
5. 船長は、乗船旅客数（無料幼児を含む。）を把握し、旅客定員数を超えていないことを確認する。

(離棧準備作業)

第 9 条 陸上誘導員は、離棧時刻となったときは、旅客の乗船完了を確認した後、船長と連絡を取り遮断策を張り舷門を閉鎖する。

2. 船長は、直ちに舷門の閉鎖を確認する。

(離棧作業)

- 第10条 陸上誘導員は、離棧準備作業完了後、適切な時期に出港を放送させる（発航ベルを鳴らさせる等）とともに、見送人等が離棧作業により危害を受けないよう退避させ、棧橋上の状況が離棧に支障ないことを確認して、その旨を船長に連絡し、綱取りの位置につく。
2. 船長は、すべての離棧準備が完了したことを確認したならば、他の船舶の動静その他周囲の状況が離棧に支障がないことを確認のうえ、係留索を放させ慎重に離棧する。
  3. 陸上誘導員は、船長の指示により迅速、確実に係留索を放す。

(着棧準備作業)

- 第11条 運航管理者は、着棧予定時刻に合わせ陸上誘導員に対し着棧準備作業の開始を指示しておく。
2. 陸上誘導員は、船舶の着岸に必要な着棧準備を行なう。

(着岸作業)

- 第14条 陸上誘導員は、迅速、確実に綱取り作業を実施する。この場合、係留索の急緊張等により危害を受けることのないよう十分注意する。

(係留中の保安)

- 第15条 船長及び運航管理者は、係留中、旅客の安全に支障のないよう係留方法及び舷門の保安に十分留意する。

(旅客の下船)

- 第16条 船長は、船体が完全に着棧したことを確認したときは、その旨陸上誘導に合図する。
2. 船長は、陸上誘導員と協力してタラップを架設し、旅客を誘導し下船させる。

(下船の終了)

- 第17条 陸上誘導員は、船長から旅客の下船が完了した旨の連絡を受けた後、舷の閉鎖及び遮断索を張り通行を遮断する。
2. 陸上誘導員は、旅客の下船が完了したときは、異常の有無を、運航管理者に報告する。

## 第5章 旅客の遵守事項等の周知

(乗船待ち旅客に対する遵守事項等の周知)

第18条 運航管理者は、乗船待ちの旅客に対して次の事項を掲示等により周知しなければならない。周知事項の掲示は旅客待合所及び発着所とする。

- (1) 旅客は、乗下船時、係員の指示に従うこと。
- (2) 船内においては、船長その他の乗組員の指示に従うこと。
- (3) 船内においては、他人に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。
- (4) その他旅客の安全に関して旅客に周知すべき事項  
(臨時に周知事項が生じた場合の当該事項を含む。)

(乗船旅客に対する遵守事項等の周知)

第19条 船長は、旅客が乗船している間適宜の時間に次の事項を放送等（ビデオ放送その他の放送を含む。）により周知しなければならない。

- (1) 旅客に禁止行為が掲示されている場所及びその主要事項
  - (2) 救命胴衣の格納場所、着用方法
  - (3) 非常の際の避難要領（非常信号、避難経路等）
  - (4) 病気、盗難等が発生した場合の乗組員への通報
  - (5) その他旅客が遵守すべき事項
2. 船長は、船内の見やすい場所に前項各号の事項を掲示しておかなければならない。

第20条 船長は救命胴衣の着用に関し、旅客に対し以下の措置を講じなければならない。

- (1) 暴露甲板に乗船している旅客には、救命胴衣を着用させるよう努める事。
- (2) 12歳未満の児童には、船室内にいる場合を除き、常時、救命胴衣を着用させるよう努める事。
- (3) 気象・海象の悪化等、利用者の安全確保のために必要と判断される場合は、救命胴衣を着用させること。